

12/18 Thu.

SHINRYO presents 〈第九〉特別演奏会
サントリーホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by SHINRYO / Suntory Hall 19:00

12/20 Sat.

第282回 土曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SATURDAY MATINÉE SERIES No. 282 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/21 Sun.

第282回 日曜マチネーシリーズ
東京芸術劇場コンサートホール 14時開演
SUNDAY MATINÉE SERIES No. 282 / Tokyo Metropolitan Theatre 14:00

12/23 Tue.

第687回 名曲シリーズ
サントリーホール 19時開演
POPULAR SERIES No. 687 / Suntory Hall 19:00

12/24 Wed.

第42回 大阪定期演奏会
フェスティバルホール 19時開演
SUBSCRIPTION CONCERT IN OSAKA, No. 42 / Festival Hall 19:00

12/26 Fri.

大成建設 presents 〈第九〉特別演奏会
東京芸術劇場コンサートホール 19時開演
SPECIAL CONCERT, presented by TAISEI CORPORATION / Tokyo Metropolitan Theatre 19:00

12/27 Sat.

第147回 横浜マチネーシリーズ
横浜みなとみらいホール 14時開演
YOKOHAMA MATINÉE SERIES No. 147 / Yokohama Minato Mirai Hall 14:00

ベートーヴェン
BEETHOVEN

交響曲 第9番 二短調 作品125 〈合唱付き〉

[約65分] -p.10

Symphony No. 9 in D minor, op. 125 "Choral"

- I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
- II. Molto vivace
- III. Adagio molto e cantabile
- IV. Presto – Allegro assai

※本公演には休憩がございません。あらかじめご了承ください。

*No intermission

指揮
Conductor

ソプラノ
Soprano

メゾ・ソプラノ
Mezzo Soprano

テノール
Tenor

バス・バリトン
Bass Baritone

合唱
Chorus

合唱指揮
Chorusmaster

特別客演コンサートマスター
Special Guest Concertmaster

マキシム・パスカル -p.5
MAXIME PASCAL

熊木夕菜 -p.6
YUMA KUMAKI

池田香織 -p.6
KAORI IKEDA

シヤボンガ・マクンゴ -p.7
SIYABONGA MAQUNGO

アントワン・ヘレラ=ロペス・ケッセル -p.7
ANTOIN HERRERA-LÓPEZ KESSEL

新国立劇場合唱団 -p.8
NEW NATIONAL THEATRE CHORUS

平野桂子 -p.8
KEIKO HIRANO

日下紗矢子
SAYAKO KUSAKA

※当時の発表から、出演者が一部変更になりました。

主催: 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

共催: 東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団) (12/20、12/21)

特別協賛: 新菱冷熱工業株式会社 (12/18)、大成建設株式会社 (12/26)

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会 (12/20、12/21、12/23、12/27)

協賛: 大成建設株式会社 (12/23)、非破壊検査株式会社 (12/24)、大和ハウス工業株式会社 (12/24)

協力: コジマ・コンサートマネジメント (12/24)、横浜みなとみらいホール (12/27)

事業提携: 東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団) (12/26)

※12/18公演では日本テレビの収録が行われます。

指揮

マキシム・パスカル

MAXIME PASCAL, Conductor

躍動的なタクトで
パスカルが響かせる
究極の〈第九〉



©読響 撮影=藤本崇

12/18

12/27

〈第九〉公演

Maestro

長い手足をバネのように使い躍るような指揮で熱い音楽を作る鬼才パスカルが、音楽史に燐然と輝く名曲〈第九〉を指揮し、作品の神髄に迫る。

1985年仏カルカソンヌ生まれ。幼少よりピアノとヴァイオリンを学び、パリ国立高等音楽院で指揮をフランソワ=グザヴィエ・ロトに師事。2014年フランス人として初めてネスレ・ザルツブルク音楽祭のヤング・コンダクターズ・アワードを受賞したのをきっかけに、欧州で活躍。先進的な現代音楽演奏グループ「ル・バルコン」の創設者として、音楽と最先端の音響・照明システムを融合させた活動を開いている。〈ナクソス島のアリアドネ〉や〈月に憑かれたピエロ〉で好評を博したほか、18年秋からシュトックハウゼンの長大な連作オペラ〈光〉ツイクルスをスタートさせ、フィルハーモニー・ド・パリなどで上演して話題を呼んでいる。

これまでにウイーン・フィル、ロンドン響、ミュンヘン・フィル、デンマーク国立響、RAI国立響、レ・シエクルなどの楽団で客演するほか、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、ベルリン国立歌劇場などでも活躍。23年には、ザルツブルク音楽祭でウイーン・フィルとマルティヌー〈ギリシャ受難劇〉を、エネスコ国際音楽祭で〈アッシジの聖フランチェスコ〉を披露し、成功を収めた。26年にはベルリン・ドイツ・オペラの首席客演指揮者に就任予定。日本では東京二期会に度々登場して、〈金閣寺〉〈サムソンとデリラ〉〈ルル〉を指揮し、いずれも高く評価された。読響とは20年の初共演以降、数々の名演奏を繰り広げており4回目の共演。

12/18

12/27
(第九)公演

Artist

ソプラノ
熊木夕菜

YUMA KUMAKI, Soprano

©GODA

透き通る美声の若き歌姫。大阪教育大学卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。2022年KOBE国際音楽コンクール第2位、同時に兵庫県文化協会賞、姫路パルナソスコンクール第2位など受賞多数。受賞者記念コンサートにも出演し、幅広いレパートリーを披露。24年8月、東京響のブーランク〈グローリア〉のソリストを務め、好評を博した。同年11月、原田慶太楼・読響と日生劇場での〈連隊の娘〉のマリー役でオペラデビュー。音楽誌で絶賛されるなど、センセーショナルな成功を収めた。25年5月には関東初となるリサイタルを開催し、その澄み切った美声と卓越したテクニックで聴衆を魅了した。24年から明治安田クオリティオブライフ文化財団の「海外音楽研修生費用助成」によりイタリアに留学中。

12/18

12/27
(第九)公演

Artist

メゾ・ソプラノ
池田香織

KAORI IKEDA, Mezzo Soprano

©井村重人

読響とも数々の名演奏を残している日本を代表するメゾ・ソプラノ。慶應義塾大学法学部卒業。二期会オペラスタジオ修了、〈セビリアの理髪師〉ロジーナでオペラデビュー。二期会では〈トリスタンとイゾルデ〉イゾルデ、〈エロディアード〉表題役、〈サムソンとデリラ〉デリラなどを歌い、ヴァイグレ・読響と共に演じた〈タンホイザー〉ヴェーヌスでも絶賛された。新国立劇場〈ワルキューレ〉ブリュンヒルデ、びわ湖ホール〈ジークフリート〉〈神々の黄昏〉ブリュンヒルデなどで数々の名舞台を築いてきた。コンサートでも主要楽団と多数共演しており、ヴェルディ〈レクイエム〉、ベートーヴェン〈ミサ・ソレムニス〉、マーラー〈復活〉〈大地の歌〉、ワーグナー〈ヴェーゼンドンク歌曲集〉などでソリストを務め高評価を得ている。二期会会員。

テノール
シヤボンガ・マクンゴ

SIYABONGA MAQUNGO, Tenor

©Jeremy Knowles

輝かしい声で世界を魅了する俊英。南アフリカ共和国出身。2020年からベルリン国立歌劇場の専属歌手として活躍し、〈魔笛〉タミーノ、〈フィデリオ〉ヤキーノ、〈セビリアの理髪師〉アルマヴィーヴァ伯爵、〈ラインの黄金〉フローなど、幅広いレパートリーで高い評価を得ている。またバレンボイム、パッパーノ、ヴァイグレ、ヤング、ボルトン、ミンコフスキら名匠の指揮で、ミラノ・スカラ座、マドリード王立劇場、ライプツィヒ歌劇場などの主要歌劇場やバイロイト音楽祭で歌い、華々しい歌声と魅力的な存在感で聴衆の心を掴んでいる。24年にはマケラ指揮のパリ管、シャニ指揮のサンタ・チエチーリア国立アカデミー管によるベートーヴェン〈第九〉のソロを務め、成功を収めた。読響初登場。

12/18

12/27
(第九)公演

Artist

バス・バリトン
アントワン・
ヘレラ=ロペス・
ケッセルANTOINE HERRERA-LÓPEZ KESSEL,
Bass Baritone

12/18

12/27
(第九)公演

Artist

12/18

12/27

〈第九〉公演

Artist

12/18

12/27

〈第九〉公演

Artist

合唱

新国立劇場合唱団

NEW NATIONAL THEATRE CHORUS, Chorus

1997年にオープンした新国立劇場で、オペラ公演のための合唱団として活動を開始。厳正な審査によって選ばれるメンバーは100名を超え、新国立劇場が上演する多様なオペラ公演を通じて、年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と優れた演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量を誇る。その確かな実力で、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家をはじめ、国内外のメディアからも高い評価を得ている。読響とは2007年の〈第九〉公演以来、17年のメシアン〈アッシジの聖フランチェスコ〉、23年のアイスラー〈ドイツ交響曲〉、今年3月のベルク〈ヴォツェック〉などで見事な歌唱を披露し、絶賛を博した。



合唱指揮

平野桂子

KEIKO HIRANO,
Chorusmaster

洗足学園音楽大学器楽科卒業、同附属指揮研究所修了。ウィーン・ブライナー音楽院で優秀者演奏会に選抜、飛び級でディプロムを最高位取得。指揮をマクシミリアン・ツェンチッチ（元ウィーン国立歌劇場指揮者）らに、ドイツ語発音法をヴァルター・ムーアに師事。岩手県久慈市文化会館オペラ公演〈ドン・パスクアーレ〉を指揮。ウィーン・シェーンブルン宮殿でのモーツアルト〈レクイエム〉では、合唱指導およびオルガン奏者としてウィーン・フォルクスオーパーのソリストと共に演。イタリア・ピアチエンツァ歌劇場での〈アイーダ〉では、スカラ座合唱団を率いて好評を博した。新国立劇場では〈トリスタンとイゾルデ〉〈夢遊病の女〉〈魔笛〉〈蝶々夫人〉などに参加している。

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125〈合唱付き〉

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)の交響曲第9番は古典派の枠組みを残しながらも、終楽章に声楽を取り入れることで交響曲というジャンルを拡張し、ロマン派の到来を告げた革新的な作品である。様々な形式を複合させただけでなく、器楽を詩と結び付けることで、ベートーヴェンは音楽を倫理的・哲学的次元へと高めたとすら言えるかもしれない。

1785年に書かれたシラーの詩『歓びに寄せて』は、階級や民族を超えた人類の兄弟愛をうたい、自由・平等・博愛といった啓蒙主義の先を見据える理想を掲げていた。この詩には発表当初から曲がついており(ただし作曲者は不詳)、その後多くの作曲家が付曲(例えばシューベルトのD189の歌曲)していることから、当時よく読まれ、かつ歌われていたと考えられ、ベートーヴェンもウィーンに出る前のボン時代にすでにこの詩に触れていた。

とはいえてベートーヴェンが本格的に〈第九〉の作曲に入るのは1822年後半のこと、しかも『歓びに寄せて』をテクストにした合唱・独唱を伴う終楽章というアイディアが形を成してくるのは、曲の完成の半年ほど前のことであった。しかしこのアイディアによって、〈第九〉の前に書かれたカトリックの祭儀をベースとする〈ミサ・ソレムニス〉(パトロンであったルドルフ大公の大司教就任を祝うために書かれた)とは対照的に、「苦悩を突き抜けて歓喜へ」(交響曲第5番)というドラマトゥルギーは人類全体に向けられた普遍的なメッセージ性を帯びることとなったのである。

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロッポ、ウン・ポコ・マエストoso 霧に包まれたように始まる序奏は、古典派の明快な主題提示とは異なり、混沌からの生成の瞬間を描くかのようだ。神秘的な序奏を経て現れる第1主題は雷のように苛烈に始まり莊厳かつ長大で、この後に展開される様々な動機を含んでいる。柔軟な第2主題はこれに比べると短めで楽曲構成上の役割も小さい。嚴肅な葛藤を描く第1楽章は終楽章の「歓び」への出発点をなしている。

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ 三部形式だが通常のスケルツオよりも大規模で、ベートーヴェンらしい緊迫感に満ちている。強烈なリズム動機が提示された後、こ

こから派生した主題がカノン状に展開される。律動は3小節単位になったり4小節単位になったりと揺れ、そのずれが推進力を生む。トリオ部では2/2拍子に転じ、木管楽器が牧歌的な旋律を奏で、重厚な主部との対比をなす。生命力、エネルギーのみなぎる精神の鼓動が描きだされる。

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ 冒頭、第1ヴァイオリンに現れる主題を変奏しつつ、間に動きを持った第2主題(アンダンテ・モデラート)を差し挟み変化をつけている。内省的な情感と静かな祈りが支配し、各変奏が装飾を少しづつ拡張することで、後期ベートーヴェンに特徴的な変奏を通じた境地の深化が表現されている。

第4楽章 プレスト～アレグロ・アッサイ ソナタ形式、変奏形式、カンタータなどの要素を複合した多層構造をとる。冒頭ではこれまでの3楽章の動機が断片的に回想され、低弦がレチタティーヴォ風の動きでそれらを次々と否定する。やがて有名な「歓喜の主題」が静かに提示され、オーケストラ全体に広がっていく。この主題は単純な進行で構成され、普遍性と親しみやすさを兼ね備えている。

続いて独唱バリトンが「ああ友よ、こんな音ではない!」と否定のレチタティーヴォを歌い、以後、トルコ行進曲風のエピソード、コラール風の莊厳な音楽、フーガ的展開、独唱陣による技巧的なカデンツァなど、合唱・独唱・オーケストラが交錯しながら歓喜の主題を多様に変奏し、人類の連帶を歌いあげる圧倒的クライマックスへと到達する。

〈江藤光紀 音楽評論家〉

作曲：1818年頃～24年／初演：1824年5月7日、ウィーン、ケルントナートーア劇場／演奏時間：約65分
楽器編成／フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、
トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、トライアングル)、弦五部、独唱
(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、合唱

12/18
12/27
(第九)公演

Program Notes

第4楽章

An die Freude 「歓びに寄せて」

訳：江藤光紀

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen, und freudenvollere!

ああ友よ、こんな音ではない!
そうではなく、もっと心地よく もっと歓び溢れる歌を歌いだそう!

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum.

歓びよ、神々の美しいひらめきよ 天の楽園からきた娘よ
私たちは火のように酔いしれて 天界へと、おまえの聖域へと踏み入る

Deine Zauber binden wieder, Was die Mode streng geteilt,
Alle Menschen werden Brüder, Wo dein sanfter Flügel weilt.

おまえの魔法が再び結び合わせる 時流が強く切り離したもの
すべての人間が兄弟となる おまえの柔らかな翼が留まる所で

Wem der große Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!

ある友の友となるという 大きなチャレンジに成功したもの、
優しい女性を得たもの、 その人が上げる歓声に加わろう!

Ja, wer auch nur eine Seele Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle Weinend sich aus diesem Bund!
そう、この世でただ一つの魂だけでも 自分のものだと言える人ならば!
そしてそれがかなわなかった人は この連帯から泣きながらこっそり去れ!

Freude trinken alle Wesen An den Brüsten der Natur,
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur.

あらゆる存在が歓びを飲む 自然の乳房から
善人も悪人もみんな 歓びの通った薔薇の痕跡をたどる

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

歓びは私たちにキスとブドウと 死の試練を受けた友を与えた
快楽は虫けらにも与えられたが 神の前に立つのは智の天使だ

Froh, wie seine Sonnen fliegen, Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet Brüder eure Bahn, Freudig wie ein Held zum Siegen.

太陽が天界の壮麗な計画に従って 空を駆けるように朗らかに
兄弟よ、自らの道を進め 勝利を目指す英雄のように歓びあふれて

Seid umschlungen Millionen! Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! überm Sternenzelt Muß ein lieber Vater wohnen.

抱き合おう、何百万もの人びとよ！ このキスを全世界に！
兄弟よ！ この星空を越えたところに 愛する父が住んでいるはずだ

Ihr stürzt nieder, Millionen? Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt! Über Sternen muß er wohnen.

人びとよ、跪いているか？ 世界よ、創造主を感じているか？
星空の彼方にその方を探せ！ 星々の彼方にその方は住んでいるはずだ